

民法Ⅱ〔担保物権〕

(Civil Law Ⅱ)

3 学期 火曜 7・8 時限
授業時間：75 分×20 回
単位数：2 単位
履修年次：1 年次

担当教員：池田雅則
研究室：神保町研究室

授業の到達目標：

民法第 2 編物権に含まれる典型担保物権および判例を含む実務によって承認されている非典型担保に関して、その要件効果を確実に理解するとともに、担保制度の意義および社会的経済的機能を理解すること、すなわち担保とは何かを理解することを目的とする。

授業概要：

担保とは何かを具体的な設例に基づきつつ解説し、理解を深めることを目的とする。具体的には、約定の典型担保、約定の非典型担保、法定担保の順序で説明し、約定の典型担保の中では担保物権の女王ともいふべき抵当権に関する諸問題を判例中心に検討する。非典型担保としては、まず、銀行実務においてもっともよく用いられている譲渡担保を取り上げた後、仮登記担保、所有権留保、代理受領なども取り扱う。最後に、法定担保として、留置権と先取特権について取り上げる。

評価方法：

所定の出席要件を満たしていることを前提として、授業への参加の積極性や小テストの結果などの平常点 20%、期末試験 80% として総合的に評価する。

教科書：

内田貴『民法Ⅲ債権総論・担保物権』（東京大学出版会）

参考書：

道垣内弘人『担保物権法〔第 3 版〕』（有斐閣）

瀬川信久ほか『民法判例集（担保物権・債権総論）』（有斐閣）

その他、関連する法令・裁判例・関連文献などについては、事前に紹介し、必要なものについては配布する。

授業計画：

第 1 回 担保とは何か

担保の意義、担保の種類、担保物権に共通する性質や効力などの基本的な事項について説明する。とりわけ、民法の書かれざる原則である債権者平等の原則との関係や担保権者の利益と担保目的物所有者の経営の自由との相克についても理解をさせた上で、物的担保と人的担保との相違、優先弁済効、追及効などを把握できるようにする。

第2回 抵当権総論

抵当権の法的性質, 設定および本質的な効力について解説を行う。とくに, 非占有担保権としての抵当権の意義と実際にどのように用いられているのかを中心に解説する。

第3回 抵当目的物範囲論Ⅰ

抵当権の効力の及ぶ範囲として, 従物論・附加一体物論を検討する。

第4回 抵当目的物範囲論Ⅱ

抵当権の効力のおよぶ範囲との関わりから, 抵当権と分離物に関する議論を整理・紹介して, 目的物の範囲に関する議論を整理する。

第5回 抵当目的物範囲論Ⅲ

物上代位に関する諸問題を検討する。とくに, 賃料への物上代位とそれをめぐる債務者・第三債務者との衝突を中心とする。

第6回 抵当目的物範囲論Ⅳ

抵当権の効力の及ぶ範囲を外延において画している抵当権侵害の問題について, 抵当権に基づく物権的請求権が認められるに至った判例理論の変遷を含めて, 解説する。

第7回 抵当権と利用権の調整Ⅰ

抵当権と利用権との関係についての諸問題について解説する。平成15年改正によって廃止された短期賃貸借保護制度はなぜ改正されるに至ったのかを含め, 法政策的観点からも検討を加える。

第8回 抵当権と利用権の調整Ⅱ

抵当権と利用権の調整の第2回目として, 法定地上権制度について解説する。

第9回 抵当権と利用権の調整Ⅲ

法定地上権制度の第2回目として, 共同抵当建物の再築など近時問題となっている事案を取り上げ, 解説する。

第10回 抵当権の処分

抵当権の残された諸問題のうち, 第三取得者の法的地位・抵当権の処分について解説する。

第11回 共同抵当

共同抵当における配当の問題を整理して, 解説する。

第12回 根抵当ならびに抵当権の実行と配当, 消滅および特殊の抵当

金融実務において多用されている根抵当について、判例理論を中心に解説し、さらに抵当権の実行手続の基本と配当に関する問題について取り上げる。また、抵当権の消滅に関する議論を紹介する。また、工場抵当、財団抵当、企業担保など特殊な抵当制度について制度の概説をする。

第13回 権利移転型担保権Ⅰ

所有権移転形式による非典型担保について、抵当権と対比しつつ解説する。とりわけ、不動産譲渡担保を取り上げる。

第14回 権利移転型担保権Ⅱ

第13回に引き続いて、不動産譲渡担保を取り上げる。とりわけ、設定当事者と第三者との関係などを中心に解説する。

第15回 権利移転型担保権Ⅲ

所有権移転形式による非典型担保のうち、動産を対象とするものを解説する。その際、近時立法された動産・債権譲渡特例法による担保化についても取り上げる。また、いわゆる集合動産譲渡担保についてもその法的根拠や経済的必要性などについて言及する。

第16回 権利移転型担保権Ⅳ

所有権移転形式による非典型担保のうち、債権を対象とするものを解説する。その際、近時立法された動産・債権譲渡特例法による担保化についても取り上げる。また、いわゆる集合債権譲渡担保についてもその法的根拠や経済的必要性などについて言及するほか、その他の担保手段についても検討する。

第17回 権利移転型担保権Ⅴ

所有権移転形式による非典型担保のうち、仮登記担保法によるものを取り上げる。その際、判例法として発展してきた代物弁済予約による担保が制定法として結実したことによってどのように変容したのかについても解説する。

第18回 権利移転型担保権Ⅵ

所有権留保を取り上げる。とりわけ、所有権留保の担保としての機能とその限界について判例理論を中心に解説する。

第19回 質権

残された約定典型担保物権である質権を取り上げる。

第20回 法定担保物権

法定担保物権である留置権と先取特権について取り上げる。